

日本語抄訳 2019 年 9 月 25 日発表

アリソントランスミッションにより、 シドニーの鉄構造物メーカーが AT 搭載トラックへの信頼を高める

Marco Steel 社、急こう配での鉄構造物運搬に、アリソン製 AT 搭載トラックを採用

シドニー(現地時間 2019 年 9 月 10 日発表)–高級住宅・商業ビル向け建設用鋼・鉄構造物メーカーの Marco Steel 社(本社:豪州シドニー・ノーザンビーチ、以下 Marco 社)は、重い鉄構造物をシドニー全域の建設現場へ運搬するために、アリソン製オートマチックトランスミッションを搭載したいすゞFSR 140-260 を利用しています。

Marco 社の社長 Rob Coote 氏によると、アリソン製 AT は当然の選択であり、1 年前にいすゞ製トラックを採用してから、その実用性と操作性の高さは、同社の業務上なくてはならない存在になったとのことです。

Coote 氏は、「当社の鉄構造物が使用される住宅・ビルは、シドニーの海外沿いの丘陵といった運搬が難しい場所にあり、AT トラックだからこそ、現場に構造物を運搬できることがあります。例えば、重量 5 トンの鉄製らせん階段をトラックに載せ、可能な限り設置場所近くに運びたい時、アリソン製 AT であれば、MT では登りきることが出来なかったような急こう配の道も登りきることができるのです」と述べました。Marco 社が採用しているいすゞFSR は、油圧クレーンを搭載しており、重い鉄構造物を現場近くに直接降下することができます。

また Coote 氏は、アリソン製 AT が、シドニーでトラックを運転する際の安全性・操作性の向上に寄与していると、「従業員は素晴らしいアリソン製 AT のおかげで運転を楽しんでいます。経営者としても従業員が MT 車より安全かつ操作性の高いトラックを運転することに安心をおぼえ、自信を持って運転してもらうことができます」と述べました。

Marco 社は 1980 年に Coote 氏が設立した豪州有数の建築用鋼・鉄構造物メーカーで、シドニー周辺の大規模事業を手掛ける建築家に対して、複雑な鉄構造物を提供しています。

Coote 氏は、「われわれの事業同様に、日々物事は進化します。AT トラックこそが、これからのトラックと言えます。私はもう MT トラックは購入しないでしょう」と述べました。

アリソントランスミッションについて

アリソントランスミッション(Allison Transmission、NYSE:ALSN)は、中型・大型商用車用のオートマチックトランスミッション、および都市バスのハイブリッドシステムの世界最大手メーカーです。アリソンは、あらゆる市場・用途(塵芥収集車、建機、消防車両、キャンピングカー、エネルギー開発・鉱山用機器、軍需用装輪車両・無限軌道車両など)で活躍しています。1915年の創業以来、本社を米国インディアナ州インディアナポリスに拠点を置き、従業員数は全世界で約2,900人です。世界中の80以上の市場でビジネスを展開し、オランダと中国、ブラジルに地域本部、米国とハンガリー、インドに製造拠点を設けています。また、約1,400か所の独立した販売・サービスディーラーで充実したサポートを提供しております。詳細については、こちらをご参照ください。www.allisontransmission.com

本件に関するお問い合わせ先

アリソンジャパン株式会社（担当：荒井）
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-1
品川イーストワンタワー3階

TEL: 03-6718-1696 FAX: 03-6718-1661
E-mail: yukio.arai@allisontransmission.com

株式会社 PRISM（担当：平田）
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-3-20
神谷町 MTビル 14階

TEL: 03-5404-3812 FAX: 03-5404-3813
Mobile: 090-3374-5372
E-mail: hirata@prism-jpn.com

画像

	<p>Marco 社の Rob Coote マネージングディレクターは、アリソン製 AT は当然の選択であり、1年前にいすゞ製トラックを採用してから、その実用性と操作性の高さは、同社の業務上なくてはならない存在になったと語っています。</p>
	<p>Marco 社は 1980 年に Coote 氏が設立した豪州有数の建築用鋼・鉄構造物メーカーで、シドニー周辺の大規模事業を手掛ける建築家に対して、複雑な鉄構造物を提供しています。</p>
	<p>Coote 氏は、「従業員は素晴らしいアリソン製 AT のおかげで運転を楽しんでいます。経営者としても従業員が MT 車より安全かつ操作性の高いトラックを運転することに安心をおぼえ、自信を持って運転してもらうことができます」と述べました。</p>